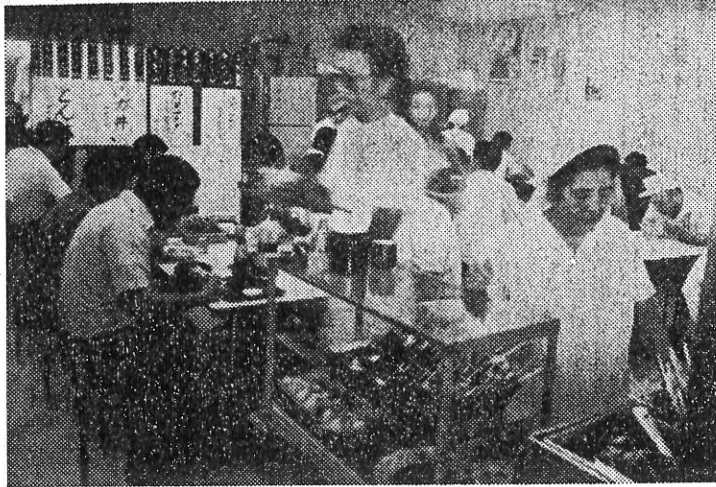


施設たすねて

母子福祉会が経営する食堂の売り上げを永年にわたり貯え、それを主な基金に建設した母子寮が埼玉県戸田市にある。(福)むつみ会(本橋八重子理事長)のむつみ荘(関根その施設長、戸田市本町2-14-34)がそれで、今年4月に開設された。最盛期には全国で652施設あった母子寮も現在は361施設と著しく減少している中での新設はきわめて異例だが、同会の母子福祉向上への熱意が国や県に認められたためといえよう。定員15世帯中13世帯(ほかに職員として1世帯)が入所、待機世帯も多い。

(と)



戸田競艇場内にある母子会食堂。母子寮建設に大きな力となった

母子会の力で建設

むつみ荘 母子寮(埼玉・戸田市)

17年間こつこつ五千万円

競艇場の食堂売上げ積立て

戸田市母子福祉会が築足したの全国的にバックアップしてくれたは昭和二十九年で、スタート時から戸田競艇場内で食堂を経営してきた。しかし三十九年の東京オリンピック開催を前に競艇は中断され、再開したのは四十年十一月から。本橋理事長が母子福祉会会長を引き受けたのもこのときから将来に役立つよう、収益金の一部を積み立ててきた。この積立金が三千万円になった五十二年九月、母子寮建設プランを委員の総意で決議した。

建設用地貸与を市や市議会に陳情したり、建設についての協議書を知事宛提出したりするなど不慣れた手続きを重ね、市や市議会も



各室バス完備もご自慢のひとつ。案内する本橋理事長



関根施設長

総工費は一億六九七〇万円、補助金は五三二六万円、県及び市補助金がそれぞれ二五八八万円、建設はようやく軌道に乗った。総工費は一億六九七〇万円、補助金は五三二六万円、県及び市補助金がそれぞれ二五八八万円、建設はようやく軌道に乗った。総工費は一億六九七〇万円、補助金は五三二六万円、県及び市補助金がそれぞれ二五八八万円、建設はようやく軌道に乗った。

母子寮むつみ荘が完成したのは今年三月。市有地二七八平方メートルに延九〇六平方メートルの鉄筋コンクリート三階建てのすっきりした建物だ。居室はそれぞれ六畳と四畳半の和室とカスレンジ、流し台付キッチン、それにバス・トイレが完備されている。

利用者が少ない

栃木県は五十五年から「父子家庭介護人派遣見直し」を行って、利用者が増えつつある。このため県では広報活動を強化することになり十一月に行う「父子家庭実態調査」の結果などをふまえて、来年度以降は制度内容の改善を検討したいとしている。

全国的に母子寮二ド減少が叫ばれる中で、埼玉県では戸田市のむつみ荘が今年四月に新設された。

埼玉県 母子家庭が急増 全国平均の二倍被保護世帯

埼玉県は五十六年の13.3%と比較しても一・八倍の高率だ。金被保護母子世帯(三七二四世帯)

直前の居住地は東京60%(東京、埼玉以外の関東18.6%)と圧倒的で、転入理由も安いアパート

こうした数字から推定されるのは安いアパートなど住居を求めて県内に転入したものの、夫婦関係が維持できず離婚したというパターン。母子の状態はなつてから保護開始までの期間は一月以内37.8%、三月以内15.1%、三月以内52.9%が保護を受けている。しかしこれは都市部の県南地区に自立し、郡部の県北と大きく異なる傾向だといえる。

このほか埼玉県では母子・父子家庭介護人派遣(五十四年から)などの生活保護事業や、母子相談

栃木県は五十五年から「父子家庭介護人派遣見直し」を行って、利用者が増えつつある。このため県では広報活動を強化することになり十一月に行う「父子家庭実態調査」の結果などをふまえて、来年度以降は制度内容の改善を検討したいとしている。